

R2年度 自己評価結果公表

本年の教育・保育目標及び方針

- ・心身共に 丈夫なからだ 元気な子
- ・明るい子 強い子 よく遊ぶ子 あいさつのできる子

本年度の重点目標

- ・年齢、個別に応じ教育・保育・食育を行い、心身共に健やかに園児が成長できるようにする
- ・職員間の連携をしっかりと行い、教育・保育（食育）の充実をはかる
- ・担当制やグループ保育、個別対応を行い一人ひとりに寄り添った保育を行う
- ・リーダー職により職務への自覚と責任を持てるようにする

評価項目別の達成および課題状況

| 項目 | 評価・課題 |
|----------------------|--|
| 本園の保育・教育理念・目標・方針の認識度 | 認識はおおむねされており、認識度は向上している。さらに保育・教育理念の認識度をあげて、保育の資質の向上をはかりたい。また目標・方針の見直しを継続し、現状の保育にあったものを検討していく。 |
| クラス（給食室）間の連携 | クラス（給食室）間の連携は年々意識は高くはなっているが、報連相の共有ができていないクラスがある。報連相の向上が図れるようにしていく。 |
| フロア・園全体での連携 | 職種間連携も向上してきてはいる。フロアリーダーを中心とした連携ができてきているように思われる。非常勤職員の意識の向上が課題である。 |
| 教育・保育（食育）内容 | 保育・食育の質の向上のための取組みを行っており、おおむねできてはいるが、気にある園児への個別の対応の工夫を行っていく必要がある。 |
| 保育（食育）知識・技術の向上 | 外部研修、内部研修、自主研修に参加することにより、各職員の資質向上に概ねつながった。コロナ過で研修参加があまりできておらず、研修の在り方の工夫の必要がある。 |
| 子育て支援（保護者・地域） | 保護者との連絡を口頭やノートにておおむね取れている。コロナ過で玄関対応をしているので保護者への伝達周知が大変であった。また縮小しているが、親子ひろばを通して地域支援もできている。 |
| 小学校・地域との連携 | 小学校との接続がコロナの影響でできず残念であった。散歩等で地域の方と接する機会も多いので挨拶をしっかりと行い、地域に根ざした園を目指していく。 |
| 健康・安全への取組み | 職員・園児の健康管理はできている。新型コロナウイルスの感染対策を今後もしっかりとしていく。防犯・防災対策はできているが、園児の突発的な行動に対応できるようにする。職員一人ひとりの意識を高め、有事に備えたい。 |
| 職務分担への取組み | 職務分担に対して理解し、概ね各自取り組んでくれている。短時間の職員の理解度が低いので上げていく。 |
| リーダー職として（該当者のみ） | リーダー職を設けて専門性を高めており、職種に応じた報告をするなど成果も見られるようになってきた。しかし、リーダー職としての役割を全うできない職員も見られ、意識の改革と保育全体向上につながるようになっていく。 |
| 総評 | 質の高い保育（食育）を行うための取組みができてきている。今後も職員が一丸となって取り組んでいく必要がある。リーダー職の育成も含めて、こども園・保育園ともに再度、保育（食育）内容を見直し質の向上をはかる。また新型コロナウイルスへの対策も検討し対応していく必要がある。 |